今冬の節電へ引き続きのお願い

環境シリーズ　はじめなきゃ！　Part 125

内容：「数値目標を伴わない」一般的な節電の要請
期間：３月31日(火)までの平日
時間：午前９時～午後９時

◆環境課　☎587－6003、FAX587－3834

この冬、関西電力管内では電力の安定供給に最低限必要な予備率３％以上を確保できる見通しです。

しかし、この見通しには市民・事業者の皆さんの定着した節電行動の効果が織り込まれています。

このため、電力の安定供給には、一人ひとりがこれまで取り組んできた節電・省エネを、この冬も実施することが不可欠となりますので、無理のない範囲でご協力をお願いします。

なお、市役所では平成22年度比10%以上の節電を目標にしています。

具体的な節電方法		チェック
ライフスタイル	夕方に電気製品の使用が重ならないよう家事の段取りを組む。	□
	温湿度計をつけて、室温を20℃に管理する。	□
暖房機器 ※暖房の控え過ぎによる体調不良に十分ご注意ください	電気の暖房機器を使う場合は、エアコンと電気ストーブ・ヒーターを上手に使い分ける。 （広い部屋で１人足元を温める場合⇒電気ストーブ 複数の人がいる広い部屋⇒エアコン）	□
	電気カーペットは人がいる部分だけを暖め、設定温度を「中」または「弱」にする。	□
	エアコンのフィルターを２週間に一度の割合で掃除する。	□
	扇風機やサーキュレーターで部屋の上部の暖気を循環させる。	□
	コタツは、上掛けなどを活用し、暖気を逃がさないようにする。	□
電気ポット	お湯はコンロで沸かし、ポットの電源を切る。	□
洗濯機	容量の80パーセント程度を目安にまとめて洗う。	□
パソコン	省電力設定を活用する。	□
掃除機	夕方のピーク時はモップやホウキを使ってみる。	□

※エアコンや照明等の節電方法については、「広報やす」１月号の環境シリーズ「はじめなきゃ」に掲載していますので、ぜひ参考にしていただき、節電にご協力をお願いします。

■「需給ひっ迫お知らせサービス」への登録を

万一、電力需給のひっ迫が予想される場合に、携帯電話・スマートフォンにお知らせします。ぜひ、登録をお願いします。

携帯電話…右のQRコードまたは http://touroku.setsuden.go.jpにアクセス

スマートフォン…App StoreまたはGoogle Playにアクセスし“節電アクション”で検索

■節電・電力需給に関する情報は…

▼政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」
http://www.setsuden.go.jp

▼経済産業省ホームページ
http://www.meti.go.jp/setsuden/index.html

▼関西電力ホームページ
http://www.kepco.co.jp/

［参考］経済産業省「冬季の節電メニュー（ご家庭の皆様）」（平成26年11月）、関西電力HP

毎月第４土曜は 廃食油回収の日

平成27年2月28日午前10時～正午
回収会場：市役所別館横電話ボックス付近　回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎587－6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎586－1441

歴史の小窓
－学芸員のメッセージ－
(125)

歴史民俗博物館
☎587-4410、Fax587-4413

【２月の休館日】
月曜日、12日(木)
※市民は入館無料

◆テーマ展野洲の古文書(13)「はやり病を封じる－近代文書にみる公衆衛生と医療－」／２月７日(土)～３月15日(日)

◆特別公開「宗泉寺の仏像」(重要文化財・秘仏）／２月７日(土)～３月15日(日)

◆第11回市史・郷土史学習会／２月14日(土)午後２時～４時／①「はやり病の歴史」 江藤弥生（当館市史専門調査員）、**②「多くの人々が願いを託した天満宮」** 古川与志継（当館職員）

※詳しくは博物館にお問い合わせください。

近代における野洲での伝染病

昨春、西アフリカ付近で流行したエボラ出血熱は多くの死者を出し、世界各国への感染拡大が懸念されました。こういった伝染病の脅威は現代に始まったものではありません。『日本書紀』崇神天皇5年には「国内に疾疫多くして民死亡れる者有て、且大半ぎなむとす」とあり、疫病によって多くの死者がでたことを示しています。集落や村境、あるいは国境を越えての人や物の交流は、経済、産業、文化といった分野で発展を遂げましたが、同時に伝染病が拡大するきっかけとなりました。

明治12(1879)年には滋賀郡を発端としたコレラが野洲郡に蔓延し、死者を出しています。当時、コレラ、ペスト、腸チフスなどの伝染病は死の病として恐れられており、これ以降も、たびたび伝染病が野洲一帯を襲いました。市三宅に残る吉田家文書には、猛烈な勢いで広がる伝染病への思いを綴った手紙が所収されています。

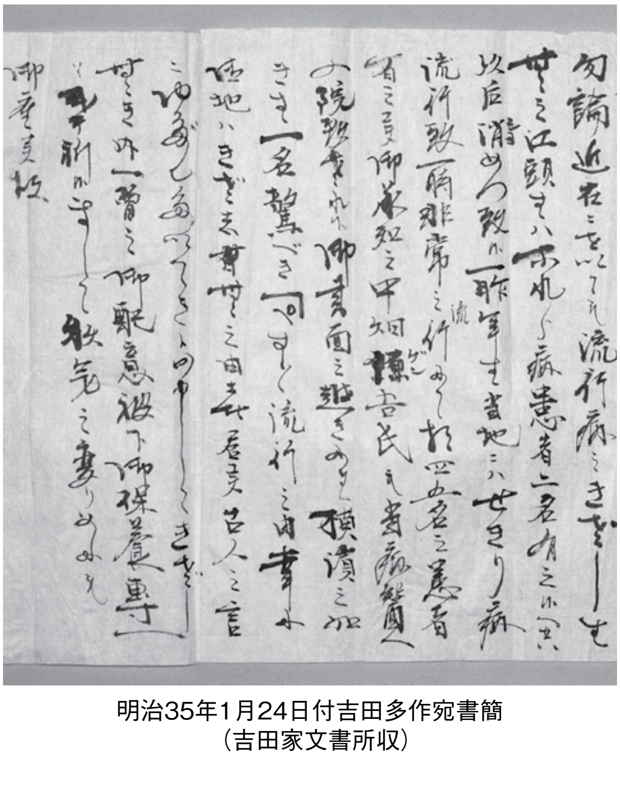
「喜ばしきは当地は勿論、近在においても流行病のきざしは無之、江頭は古れら病患者二名有之候へ共、以后消めつ致候、一昨年は当地ニハせきり病流行致、一時非常之流行にて拾四五名之患者有之候、（中略）御書面の趣には横浜之如きは一名驚べきぺすと流行の由、幸に御地はきざし無之由、喜居候、古人の言ニゆだんたいてきとか申してきざし無き内一層之御配意被下御保養専一と奉祈候」

これは明治35(1902)年に、野洲から離れた地に滞在していた吉田多作さんへ送られた知人からの手紙です。江頭（現近江八幡市江頭町）に2人のコレラ患者がでましたが、一昨年ほどのひどい流行もなく野洲一帯では終息しているという報告と、流行の兆しは無いとはいえ油断大敵なので充分保養するよう記されています。また翌年にも、東京に滞在している多作さんに、ペストの流行を聞いたので心配しているという手紙が送られています。吉田家文書には故郷からの便りが多く所収されていますが、伝染病に関する内容が幾度も見え、大きな関心事であったとわかります。

こういった致死率が高く、感染力の強い伝染病にはさまざまな対策がとられています。例えば、『野洲郡報』第41号（明治33年6月発行）の「衛生」の項目には、家鼠を1頭捕獲すれば2銭がもらえ、衛生組長を介して村役場が焼却処分するという鼠族駆除法が記載されています。家鼠は、ペスト菌を媒介するため、感染予防の措置としてその駆除を励行しました。この年の6月20日～7月31日の41日間で、野洲郡全域では5738匹も捕獲されました。

近代において脅威とされた伝染病は、公衆衛生の徹底や医療の発展により、死の病でなくなりました。2月7日(土)～3月15日(日)には古文書展「はやり病を封じる－近代文書にみる公衆衛生と医療－」を開催し、伝染病に対して野洲の人々がどのように対応したかを紹介します。ぜひご来館ください。

（市史専門調査員　江藤弥生）



明治35年1月24日付吉田多作宛書簡
（吉田家文書所収）